埼玉県南地域市長インタビュー

鋳物の街・川口市をはじめ、戸田市、蕨市など埼玉県南部地域は県内随一のモノづくり集積地。東京都に隣接する恵まれた立地条件などにより、今後もさらなる発展が期待される。10月11日には川口市が鳩ケ谷市を吸収合併する予定で、2011年は地域にとって節目の年となりそうだ。各市長に、現状と展望を聞いた。

震災の影響による危機を成長の原動力へ

岡村幸四郎・川口市長

―東日本大震災は、川口市の経済にも大きな影響を及ぼしました。市としての対策は。

「自粛ムードで消費が低迷するなど厳しい状況にある。そこで6月を『消費拡大月間』として被災地支援につながるサービス企画を募集した所、179もの店舗から賛同を得た。川口を活性化させ、被災地復興にもつなげるのが狙いだ」

「また、企業にとっては今夏の電力使用制限対策が喫緊の課題。現在、過去最低となる利率0・5%、限度額5000万円の『川口市中小企業節電対策設備資金融資』や、節電に取り組む事業所の効果や独創性が高いアイデアを表彰する『中小企業節電チャレンジ事業』を実施している」

―中小企業経営者へ伝えたいことは。

「東日本大震災という国家の危機をチャンスと捉え、成長の原動力にしてほしい。日本はこれまでも幾多の困難を乗り越える底力を発揮してきた。〝復旧・復興〟のスローガンの下、中小企業が力を発揮し、日本経済を前進させるきっかけとしてもらいたい。市も、できる限り支援する」

―国へはどんなことを求めますか。

「国内製造業が資源価格の変動に左右されずに成長し続けるためには、必要な資源の権益を獲得することが不可欠。外交などあらゆる場を通じた政府の積極的な行動を期待する」

「電力需給対策では、環境負荷を低減する自然エネルギー発電の普及など、総合的なエネルギー政策の再構築が急務だ。特に、復興の基盤となる産業界の生産活動への影響が最小限となるよう、徹底した配慮を求めたい」

住工共栄都市に向け、企業誘致に注力

神保国男・戸田市長

―さまざまな工業振興事業に取り組んでいますね。

「戸田市には多くの事業所が所在しているが、近年は外部へ移転して代わりにマンションが建つ流れにある。本来は、住工がバランス良く共存するのが理想。そこで、産業の誘致に力を入れている。工業地域内での拠点新設や設備投資などに対しては、固定資産税と同額を補助している。昨年度には日本コムシス関東中支店の誘致に成功するなど、成果が出ている」

「また、企業が厳しい経済状況の中で生き残るには、新しい技術開発が不可欠。新技術・新製品を開発する企業を対象とした補助金制度も実施している」

―3月議会では、中小企業振興条例が成立しました。

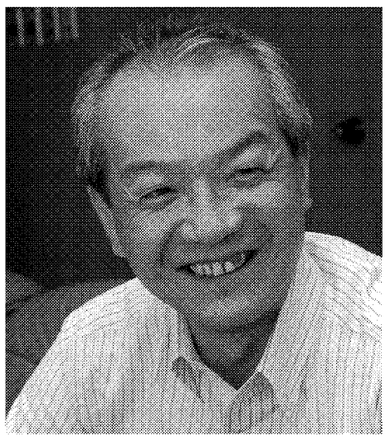
「条例に基づき、中小企業の将来ビジョンを議論する『中小企業振興会議』が今月始まった。工業者、商業者、学識経験者ら15人前後で構成し、戸田市の中小企業振興のあり方を模索している。今年度中に具体的ビジョンを策定し、来年度の施策に反映させたい」

―戸田市の魅力とは。

「東京都と隣接している上、首都高速5号線や東京外環自動車道などが通っており、交通の便が非常に良い。東京の需要を見込んだ産業の集積地として、これからも発展の可能性があると思う。今後はこれをもっと積極的に発信していきたい」

「市内には、ボート場や彩湖・道満グリーンパークなど映画やドラマの撮影に使われる場所が多い。従来は行政としての支援が少し足りなかったが、市は今年度中に『フィルムコミッション協議会』を立ち上げ、組織的に応援していく予定だ」

コンパクトシティーの良さを活かした事業展開を



頼高英雄・蕨市長

―6月の市長選挙で再選を果たしました。

「2期目のマニフェストでは、3つのビジョンの1つとして『にぎわいと活力あるまち』を掲げている。1期目では、市内業者の活性化に向けた住宅リフォーム助成制度の創設や市の制度融資における利子・保証料補給の実施、商店街活性化補助金の積極活用、中心市街地活性化計画の策定などを進めてきた。2期目では、この成果を基に、国の認定による活性化計画の本格的実施、空き店舗有効活用事業の積極的な推進を図っていきたい」

―そのほか、力を入れたいことは。

「学校体育館をはじめとする公共施設の耐震化など防災対策を強めるつもりだ。これらの事業は、市内業者の仕事確保にもつながるものと考えている」

―各企業の現状をどう見ていますか。

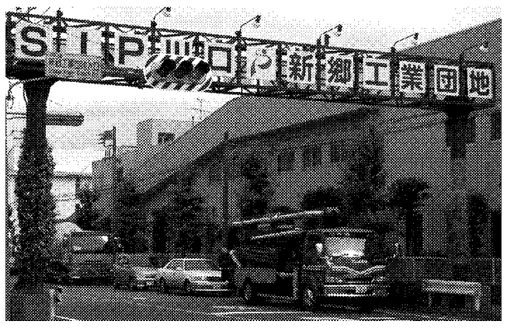
「リーマンショック後の長引く不況に加え、東日本大震災の影響など、経営を取り巻く環境は大変厳しい。だが、都心に近い利便性と文化、歴史、コミュニティーの豊かさを兼ね備えた蕨のポテンシャルは大変高いものがある。企業に対しては、日本一のコンパクトシティーの良さを活かし、企業間や企業と行政の連携を大いに深めながら新しい事業にもチャレンジしてほしいと思っている」

―日本の産業全体としても、大きな転換点を迎えています。

「中小企業こそ日本経済の主役。また、地域が発展してこそ日本の未来が開ける。市長として、地元中小企業への支援も含めて、地域の活性化に向けて全力を尽くしたい」

『ばんばん祭』で被災地の特産品を販売

川口新郷工業団地協同組合



川口新郷工業団地協同組合は、川口市東南部に所在する同団地内の企業83社で構成する。共同受配電や共同駐車場管理などで、長年各社の経営を下支えして来た。

近年は、周辺の町会と共同で住工一体型のお祭り『ばんばん祭』を開き、住民との交流を図っている。8月21日の第5回ばんばん祭は、東日本大震災被災地の復興を祈願する特別版。宮城県南三陸町歌津地区から招く被災者20―30人が、現地の特産品を販売する。石川義明理事長は「震災で沈んだ心を盛り上げたい」と意気込む。

今夏の電力不足に対しては、組合員の一部が輪番で休業するなど独自の取り組みで対応している。普段組合員全体がピーク時に使用する電力の約15%にあたる「1100キロワットを削減する」（石川理事長）方針だ。

アクセスの良さが強み 都市型工業団地を目指す

蕨工業団地協同組合

2010年8月に創立30周年を迎えた蕨工業団地協同組合。同市錦町2丁目に所在する敷地面積4500平方メートルの団地内に、組合員7社が立地している。各社の業態は、切削加工、研磨、金型設計などさまざまだ。

同工業団地の強みはJR蕨駅から徒歩約20分、同戸田駅からは約10分といった地理的条件の良さ。このため将来に向けては「都市型工業団地として知的産業の集積地を目指している」（事務局）という。その一環で10年5月には、ギフト商品などのデザイン設計を手掛けるオルアージュが入居。団地内に新風を送り込んでいる。

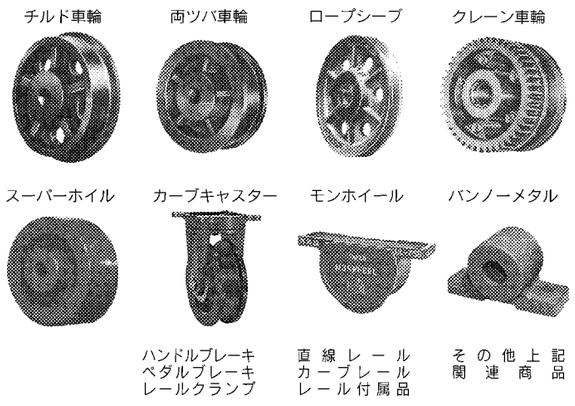
組合としての活動は、蕨商工会議所と共催する勉強会や工場視察会が中心。勉強会では、販路開拓方法や海外などについて情報提供し、各社の経営を後押ししている。

川口の市内企業を応援します

当公社では、地場産業の振興と地域経済発展のため、市内企業・地場産品の紹介など川口の産業の情報を発信するとともに、展示会出展及び特許出願審査請求に対する助成金、新製品開発振興に対する奨励金制度や商談会の開催、取引の斡旋なども行っております。

財団法人　川口産業振興公社
〒333-0844
埼玉県川口市上青木3-12-18　埼玉県産業技術総合センター 7階
TEL048-263-1110　FAX048-262-8882
http://www.kawaguchi-net.or.jp

規格品とオーダー品を短期納入！
多様化するニーズに応える
NKS
株式會社 永瀬工場
〒332-0011・埼玉県川口市元郷2－3－56
☎(048)223-3111(代表)　FAX(048)223-3115
材質　FC250.FCD600.SCMn2.SUS304.合金鋳鉄



支えるテクノロジー。
Tomorrow's Technology, Today.
Kawakin Holdings Group
Kawakin
川金ホールディングスグループ
TEL：048-259-1111　www. Kawakinhd.co.jp
株式会社 川金ホールディングス
株式会社 川金コアテック
株式会社 川金テクノソリューション
株式会社 川口金属工業
株式会社 川口金属加工
株式会社 松田製作所
光陽精機株式会社
株式会社 林ロストワックス工業
株式会社 ノナガセ

全力投球!!
～すべては会員のため　企業のため　地域のため～
川口商工会議所
http://www.kawaguchicci.or.jp
〒332-8522　川口市本町4－1－8　川口センタービル8階
TEL 048－228－2220　FAX 048－228－2221

高品質の鋳物・納期厳守で供給
ユーザーと共に歩んで1,000年……
これまでも　これからも　それが「川口鋳物」の証・誇りです
私達は守ります
製造業のサポーティング・インダストリーとして
『素形材産業取引ガイドライン』をもとに
ベストプラクティス（望ましい取引慣行）を求めて
認証官公需適格組合
川口鋳物工業協同組合
理事長　伊藤光男
〒332-0011　川口市元郷2-1-3　TEL 048-224-6200　FAX 048-224-1536
http://www.kawaguchi-imono.jp/